

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2691200154		
法人名	社会福祉法人悠仁福祉会		
事業所名	グループホーム鳳凰榎島(宿木)		
所在地	京都府宇治市榎島町大川原35-5		
自己評価作成日	令和3年8月20日	評価結果市町村受理日	令和3年11月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaiqokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoSyCd=2691200154-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅浜町83番地の1「ひと・まち交流館京都」1F		
訪問調査日	令和3年10月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍において、利用者の意向に沿った対応が難しい状況の中でも工夫を重ね、地域に根ざした取り組みを続けていくことを念頭に企画を考え実施している。コロナ感染者の人数によっては、面会が出来ない状況が続く、ご家族に施設内の様子を知って頂くために、普段の様子を写真に収め、請求書に同封し個別に様子を伝えたり、IC T、IOTを活用し、ライン電話などの画面を通して面会を行っている。また、週に一回、武田病院グループのホームページにて実施した行事の様子などブログ更新を行っている。対面で地域の方と関わる事が難しい為、利用者が手作りした作品を無人販売として販売し、販売によって得た収益でコーヒー等を購入し、コロナ患者を受け入れている医療従事者の方に、コロナの収束を祈って折った千羽鶴を添えて利用者と一緒にお届けした。地域の子供たちには直接ご利用者と接触せず交流を継続するため、塗り絵を配布、それを持参してもらうことで、アイスを提供する等取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム鳳凰榎島は隣接の複合型施設とともに榎島地域の福祉サービスの拠点として、法人の京都認知症総合センターと連携し認知症の専門的ケアに取り組んでいます。コロナ禍という厳しい状況下でもコロナを理由に活動を停滞させることなく、農家の万願寺唐辛子やかかぶの収穫手伝い、手作り無人市での手芸品等販売と収益の有効利用、福島県復興の「ひまわりの種プロジェクト」への賛同・協力など地域のみならず広義の社会貢献活動をされています。また毎週のブログ配信、毎月の「鳳凰榎島通信」ではコロナ禍で面会が制限され不安を感じておられるご家族向けに膨大な情報開示のほか個別に動画や写真送付などをして安心を届けています。更に利用者アンケートからの外出やドライブ、おいしい食べ物などへの要望を汲み、車中ドライブや弁当付きで桜のスクリーン鑑賞をするなど各種レクリエーションの充実と発掘に取り組んでいます。職員の正職員比率が高く離職率も低い安定した就労環境を背景に、コロナ禍という不本意な状況の中でも職員は利用者の声を尊重し満足度を高める努力を惜しまず、利用者もそれに応じて持てる力を発揮し生き生きと生活を楽しんでおられる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

京都府 グループホーム鳳凰槇島(宿木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員との連携については、コロナ感染対策の為にLINEのビデオ通話にて行っている。運営推進会議において宇治市の担当者にも出席してもらっている。宇治市が主催する介護相談員意見交換会にも参加し、介護相談員の取り組みを理解し、職員へフィードバックを行っている。	宇治市の福祉人材事業実施計画に参加し、「摂食・嚥下」「事業所に於けるリスクマネジメント」などのテーマで研修している。運営推進会議議事録持参、各種事務手続きでも連絡を取り合っている。介護相談員のイラスト入り手紙をホーム内の利用者の目につきやすい所に貼っている。京都府のリンクワーカーの研修を受け市と連携し認知症の方の継続支援に当たっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の安全対策委員会で、日頃の声かけや介助方法や不適切なケアが起こる可能性等、身体的拘束等適正化について確認、検討している。	毎月の委員会とは別に全職員は年2回全体研修を受け身体拘束に関する振り返りとレポート提出を行っている。現在身体拘束やセンサーマット使用例はないが、他に言語や薬による拘束はないかユニット会議や鳳凰槇島合同の安全対策・身体拘束廃止委員会などで検証している。玄関施錠は夜間や特に職員が手薄な場合を除きしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	教育訓練計画書を作成し、施設全体の研修と事業所での勉強会を開催し、虐待防止についての知識を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症ケア実践者研修等に参加したものが、施設にて伝達講習を行ったり、施設内での研修も含め権利擁護についての知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居決定後に、契約書及び重要事項説明書について説明し、入居までに理解、納得した上で契約を結んでいる。 また、記載内容に変更等あれば、都度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見はがきの送付やご意見箱の設置をするとともに、年1回の満足度アンケートを実施している。また、面談時に運営に関するご家族からの質問や意見があった場合は、上司への報告を行うよう努めている。	ご意見はがきやご意見箱には意見は寄せられていない。事務所が無人のときがあり面会者の様子から斟酌し以後どこからでも来訪が分かるようにベルを置いた例がある。ライン電話での面会希望、日頃の様子を写真で送ってほしいなどの電話での依頼に応えるとともに満足度調査からも要望を吸い上げ運営に活かしている。	

京都府 グループホーム鳳凰槇島(宿木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議や運営会議の場で提案できる機会を設けている。職員間でのコミュニケーションを図り、相談しやすい環境作りに努めている。また年2回の人事考課の際に職員と面談する機会を設け意見を聞いている。	日頃の話しやすい環境や各種会議での意見発表の場で職員は忌憚なく意見を言えている。車止めブロックに躓き防止のためのトラテープを貼る、ソファやテーブルの配置替え、医療従事者への千羽鶴寄贈の提案、動画サイト視聴用の機器購入など前向きな意見はすぐ実現してもらえることが職員ヒアリングでも確認できた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きがいのある職場づくりとして人事考課制度を導入している。また、資格取得の際の研修費負担など向上心を持って働けるように支援している。方針展開表の目標に働きがいのある職場作りを掲げ年に1回以上は、6連休取得を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育訓練計画書を作成し、定期的に研修を実施している。新たに採用した職員にはプリセプターシップを実施し、個人の力量に合わせた指導を行っている。コロナ禍での外部研修はWEB上の研修にも参加できるよう支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内の主催する研修への参加や、施設職員との人事交流を実施し、サービスの質の向上に努めている。また、グループの他施設の同職種が参加する会議等へ参加し、情報共有を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に本人の不安や思い、意向を取り入れたケアプランの作成や、入居前の情報や本人の様子、状態について職員間で共有し、安心できるケアにつなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時に家族等の不安や思い、意向を取り入れたケアプランを作成している。また、コロナ感染対策の為LINEのビデオ通話を活用し、面談を行っている。3ヶ月に1度面談を行い、不安なことや意向を聞く機会を設けている。		

京都府 グループホーム鳳凰槇島(宿木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接等を通じ、入居前の情報や本人の様子、状態について職員間で入居前カンファレンスを行い出来るだけ多くの情報を共有し、本人にとって安心できる対応ができるよう努めている。離れた家族にも必要な方には、電話等にて様子を伝える様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や家事を入居者と職員で行い、メリハリのある生活が送れるように支援している。また、職員自身の紹介をしたり、利用者の思い出話を聞くなど、お互いの事を知る事で信頼できる関係作りを構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ感染予防対策の為、面会を中止している間は、ラインのビデオ通話や電話にて、近況の様子を報告している。その際に家族の意向も確認している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染予防対策にて外出は自粛しているが、なじみの場所や思い出の場所までドライブにでかけ、車窓から景色を楽しんでもらっている。	縫物の好きな方にはボタン付けや雑巾作り、字を書く事の好きな方には食事メニュー表作成、園芸の好きな方には農家の収穫作業の手伝いなど得意なことを継続してもらっている。テレビの野球観戦やおセロの他「ボッチャ」など新しいゲームにも親しんでいる。職員が家族や親族等との無料アプリケーション電話の設定をして本人と家族との交流を支援している。インターネットの地図検索サイトで以前住んでいた自宅の写真を見てもらうこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物たたみや清掃、食事の盛り付け等、役割分担し共同で実施している。集団生活が苦手な入居者は個別で対応している。また共同スペースでかかわりの場を設け、必要に応じて職員が支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方や家族から依頼があった際は、必要に応じて相談や情報提供を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分が食べたいものや欲しいものが購入できるよう、家人へ依頼をしたり、職員が買い物の代行を行っている。夜間入浴の等、入居者の意向に応じた支援を実施している。	入居前の資料や利用者の日頃の言動、職員の気づきを書き留めた「私ノート」、介護ソフトの個別総合ケース記録、本人家族への面談や電話等をもとにアセスメント表を作成、本人理解と職員間の情報共有に努めている。担当制により本人を熟知した職員がおられ、言語以外のコミュニケーションでの意思疎通も良好で、利用者の自己選択を重視し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前情報やアセスメントより、昔の生活や暮らしてきた背景をもとに、今の状態に合わせたケアプランの作成に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のグループホーム会議で、利用者の留意事項について話し合い、認知症の進行や食事形態等、情報共有をすることで、個々の有する能力に合わせてできるだけ自立した生活が送れるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向をもとに、できる限り本人が実現できるケアプランを作成している。また、グループホーム会議にて入居者の状態について話し合い、必要に応じてカンファレンスを実施することで、課題やケアの方法について検討し、サービス担当者会議にて多職種が参加しケアプランについての意見を確認している。	入居時の暫定プラン、以後の本プランともに会議で話し合い、本人・家族・医師・看護師・介護職などによる役割分担を明確にしたうえで、本人の生きがいや楽しみに着目した本人本位の介護計画を作成している。職員は介護計画をもとに日々の実践記録を記入している。介護計画は3か月に1度モニタリングで見直し、1年間継続するが、急性増悪、入退院・区分変更などの際には随時更新する。サービス担当者会議への家族参加は行政のコロナ対策に準じて変更し、電話や玄関での面談等で意向確認をする場合もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の中から得た情報や普段の生活における会話から意向を汲み取り、ケアプランを見直している。また、本人の言葉をそのまま記録に残し、利用者同士の関係性について把握し、必要があれば食事席の変更をするなど、トラブル防止に努めている。		

京都府 グループホーム鳳凰槇島(宿木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍で面会が出来ない状態にある為、モニタリング面談以外にも、利用者の日頃の様子をLINEを活用し写真や動画で送信したり、電話にてお話して頂き、利用者や家族が安心して過ごせるよう努めている。また多職種と連携を図り、心身の状態に変化が見られた際には看護職員に24時間連絡がとれる体制を整えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の農家にご協力頂き、万願寺とうがらしの収穫に参加させてもらっている。住み慣れた地域で楽しみをもち過ごせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	居宅療養管理指導を希望された方には、月1回の往診にて診察して頂いている。かかりつけ医の診療を希望された方には、日常の様子や状態を受診時に利用者情報提供書にて伝え、医療との連携に努めている。	かかりつけ医はほぼ全員の方が協力医療機関である宇治武田病院に変更され、精神科は従来からの専門病院に通院されている方がいる。訪問診療にて病院受診が必要と判断されると家族に受診依頼をするが、家族の都合がつかない時は職員が受診同行している。緊急時は一般の救急要請のほか宇治武田病院の地域連携室と連携して送迎してもらうケースもある。隣の複合型施設看護師による24時間サポート体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間看護職員への緊急連絡体制を整えている。また、訪問診療の際には、看護職員が付き、入居者の状態把握に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中にも週1回程度、医療機関に連絡を行い、状態の把握に努め、退院後のスムーズな対応が出来るよう連携を図っている。また、退院前は、家族、医師、職員とカンファレンスを実施し、退院に向けた支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについてはできないことを契約に説明し、同意を得た上で入居してもらっている。状態の変化がみられる際は家族、本人の意向を確認し、ご本人の状態に合った施設入所等について支援している。	同一法人に医療機関(含緩和ケア病棟)や特別養護老人ホームなどがあり、重度化や常時医療が必要になられた時には施設や病院、家族と連携し、その方にとって一番ふさわしいと思われるところで医療やケアが受けられるよう法人全体の資源を活用して支援している。	

京都府 グループホーム鳳凰槇島(宿木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの設置あり。職員へは年1回普通救急救命講習を実施している。また、緊急時の対応を手順書に定め、フローチャートを作成し、全職員に周知、研修も実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防防災訓練を年2回、水害対応訓練を年1回実施している。訓練の実施については、自治会の協力を得て団地の住民や隣設のグループホームの方も一緒に参加を呼びかけている。	地域の方と連携し、昼間と夜間想定防災訓練を年に1回ずつ行っている。他に水害想定垂直訓練を実施し団地3階まで住民と共に避難している。今回はコロナ対応のため消防署の立ち合いはなかった。新しく改良した倉庫に3日分の食品や必要品を備蓄している。パスタ、缶詰、カレーなどの備蓄を3月に3回に分け賞味し、新しいものに変えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	教育訓練計画書を作成し、定期的に研修を実施している。また、職員間で声かけについて注意するように取り組んでいる。	希望される方は居室に暖簾をかけておられる。風呂場の脱衣室にも暖簾をかけ羞恥心に配慮している。介助の必要な方の食事では、介護用のエプロンでなく普通のものをしてもらい、おしゃれに見えるようにしている。トイレへの誘導も小さな声で行うよう心掛けている。機関紙等の写真については全員から同意を取って掲載している。3月に全職員対象のプライバシー保護の研修を予定している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好きな歌手や野球の動画を見る時間を設けたり、嗜好品の提供、夜間入浴の実施等、普段の会話からの意向を多く取り入れるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴について時間、回数を希望に沿って支援している。本人の食べたいものや、嗜好品等があれば、買い物を代行し提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族に依頼し、愛着していた衣類の持参をお願いしたり、職員が代行し希望の衣類を購入している。入浴前の着替えの準備等、本人と一緒に選んで行っている。また利用者の希望に応じて、訪問理美容サービスを利用している。		

京都府 グループホーム鳳凰槇島(宿木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の会話より嗜好などを聞き取り、食事レクを企画したり、コーヒーや牛乳など好きな物が提供できるよう、家人に持参をお願いしたり、買い物代行を行っている。	毎日の食事は材料を取り寄せ、職員とともに利用者が分担して調理をしている。食材を切ったり、炒めたり、盛り付けにも積極的に取り組まれている。ティータイムは居室やリビングでお好きな飲みものを楽しんでいる。飲み物はご自分で冷蔵庫から出し、ノンアルコールビールを飲まれる方もいる。行事昼食は月に2回、おやつレクリエーションは週に1回程度行っている。ホットプレートのちゃんちゃん焼きや、天丼を作ったり、ホカホカ弁当の出前をとったり、スイカパンチ、白玉など希望を聞き、普段食べないものを作り楽しんでいる。満足そうな利用者の様子はブログや月刊「鳳凰槇島通信」に掲載されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態についてカンファレンスを実施し、状態に合わせて、食べやすい大きさにカットしたり、補食等の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後に歯磨きの声掛け、見守りを行っており、口腔内を清潔に保てるよう努めている。 虫歯や歯の痛みを訴えられる際には歯科受診での対応を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限り日中は綿パンツを使用し、必要に応じてパットを使用している。 また、失敗が増えてきた入居者へは声かけを工夫し出来る限りトイレにて排泄が行えるようカンファレンスを行い排泄支援を行っている。	多くの方が布パンツを着用されている。2名は定時誘導をしているがあとの方は本人のしぐさ等から察知しさりげなくトイレに誘っている。夜間トイレ回数の多い方も転倒のないように見守り、トイレまで付き添い衣類の上げ下ろしを手伝うなど、排泄意欲やレベルを低下させないよう細やかに支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操への参加や、室内の散歩、腹部マッサージなどに加え、水分摂取についても積極的に促している。		

京都府 グループホーム鳳凰槇島(宿木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望に応じた時間に入浴してもらっており、夜間に希望する入居者には、夕食後に入浴してもらっている。	入浴回数は少ない方で週2回であるが、希望により毎日入られている方もある。入浴時間も本人の希望を尊重している。入浴剤や贈答品のゆず湯などを楽しまれている。職員の発案でタブレット型端末で音楽を聞きながら入浴される方もあり、職員との1対1の会話も大きな楽しみになっている。入浴拒否をされる方は現在おられない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は個々のペースに合わせて対応を行っている。季節や個人の好みの温度に合わせて居室の空調管理を行い、タオルケットや寝具の交換等を実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者受診結果連絡表に用法・用量を記載し、回覧にて周知している。 また、副作用について、服薬説明書を個人ファイルに綴じることで、常時確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お好きなお菓子やコーヒー等の嗜好品を提供している。また月に一度、お好きなお弁当を選んでもらい食べる機会も作っている。 個々の能力に合わせ、得意な家事を行ってもらう事で、やりがいや張りのある生活を送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブは実施しているが、コロナ禍の為外出する機会は減っている。室内で京都の桜の映像をスクリーンに流し、手作りのお弁当を食べる等、室内でも馴染みの場所を感じ、楽しめる企画を実施している。	コロナ禍で外出が自由に行えない中、近隣の散歩やドライブに出かけている。宇治平等院、八幡、天ヶ瀬ラインなどの桜、他にも沿道から見える紫陽花などを車内から見物した。事前に職員が調べて車窓から見易い隠れ名所を見つけて楽しんでもらっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が難しくお小遣いを使う際には介護職員が本人に確認しながら支払いをしている。		

京都府 グループホーム鳳凰槇島(宿木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話やLINEビデオ通話を活用し、家族と希望時にお話しできるよう努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を感じる貼り絵や壁画を一緒に作成し、共有スペースに飾っている。また、トイレや居室の場所が分からないことで不安にならないよう、大きく分かりやすく張り紙をしている。居室の温度など個々に合わせた設定にしている。	玄関には地域の子供たちの塗り絵が貼られ、リビングの壁には利用者が制作したハロウィンに因んだ作品などが飾られている。昔の東京オリンピックの新聞や、懐かしの歌手等の写真を拡大して廊下の壁に貼っている。足台などで椅子の高さを調節し座位を安定させるようにしている。リビングのソファはつまずいて転倒しないようカンファレンスで話し合い、利用者の動線に合わせてたびたび模様替えしている。大きな空気清浄機を置き、消毒や換気に努めている。採光はよく、ソファでテレビを見ながらゆったり寛ぐ利用者の姿が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関係性を理解し、できるだけ楽しく過ごしてもらえる居場所づくりや、ソファや食事席等を考慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたタンス等の家具や、好きな歌手の写真等を持参してもらい、心地の良い、落ち着いた環境作りを心掛けている。	各部屋の入り口には表札や自作の紙細工を飾り自室を分かり易くしている。居室は8畳ほどでタンスの上に写真やぬいぐるみ、テレビを置くなど各自好みのレイアウトをされている。宗教色の強い置物は持ち込んでもらわないようにしている。季節の変わり目には家族に衣替えを依頼し自宅から持参して貰っている。ベッド、マットレス、布団は事業所が備え、リネン類はレンタルであるが、洗濯好きで毎日自分で洗濯をして戸外に干される方もある。市営団地の隣の棟とは距離があり窓からの採光はよく室内は明るい。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々の行動パターンを観察し、動線の把握により危険予測を行い、必要に応じて家具の配置を変更する等、安全に生活できるように工夫している。		